

氏名： 井原 成男 (IHARA Nario)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 文学修士 (心理学) / Master of Arts
職名： 教授
専門分野： 発達臨床心理学
URL： <http://www.develop.ocha.ac.jp/ihara.html>
E-mail： nihara@nifty.com

◆研究キーワード / Keywords

臨床心理学 / 発達心理学 / 移行対象 / アタッチメント / 摂食障害
clinical psychology / developmental psychology / transitional object / attachment / eating disorder

◆主要業績

総数 (10) 件

- ・心理年齢 幼少年から青年・成人 衛藤隆・他編：からだの年齢事典, 12-17, 朝倉書店, 2008.
- ・子どものころと健康, ころの誕生, 親子ところ, 社会性ところ, 思春期ところ, ころの時代. 新世紀の小児保健 (改訂第3版), 日本小児医事出版社, 85-102, 2008.
- ・2006年 私の5冊. 臨床心理学 18 (1), 321-322, 2007.
- ・排泄, その豊かな世界. 幼児の教育, 106 (12), 14-18, 2007.
- ・育児相談場面のプロセス分析による治療・相談プログラムの開発—その2、家庭・学校・地域における発達危機の診断と臨床支援, お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「誕生から死までの人間発達科学」第IIプロジェクト最終報告書, 11-20, 2007.

◆研究内容 / Research Pursuits

発達臨床心理学コースの中で、特に病院臨床 (小児科心理臨床) 的な研究をしている。医師でないものが患者に関わるメリットを生かすために、臨床心理学を、発達心理学的に基礎付け、将来的には、まやかしものでない発達臨床心理学という独自の分野を確立することを目指している。具体的には、摂食障害の症例の、長いものでは10年以上に及ぶ治療的かわりや、フォローアップをもとにして、発達心理学的にどのように理解し、治療していったらよいかの、空理空論に走らぬ研究を心がけている。また、その研究成果を臨床現場や本コースで学ぶ、臨床心理士志望の院生にどのように還元するかの教育実践的な研究を行っている。

さらに子どもの母子関係という観点から、愛着に関する現代的なトピックについて、アタッチメントからの離脱という観点も含めた、移行対象の研究に取り組んでいる。

- ・ Developmental and clinical study of Eating Disorders
- ・ Developmental study of attachment and transitional object
- ・ Integrative study of psychotherapy

◆教育内容 / Educational Pursuits

大学院においては、現在も継続している病院臨床現場の仕事を、学的体系の中に位置付けることを目指している。相手の心理の追求には自分自身の探求が何よりも大切であることに力点を置いた教育を行っている。そうした自分自身を振り返る観点が抜けると、必ず、患者やクライアントを自己の利益のために利用する墮落した臨床や研究になるからである。具体的に教えているのは、臨床心理実習（ケース検討）、カウンセリング特論（実践）、心理療法特論などである。

- Practical study on psychotherapy (seminar)
- Practical study on counseling from the viewpoint of Psychoanalysis(seminar)
- Practical study on sand play technique from the viewpoint of Jungian theory (advanced seminar)

◆研究計画

1. これまでに積み上げてきた臨床心理学的な知見と経験を、発達心理学的な視点の中に位置づける。
2. また、認知行動療法的な視点、精神分析的な視点、分析心理学的な視点を統合した、総合的な心理療法的視点と技術を開発する。これは、セミナー等を通じて、実践的に研究を進めつつある。
3. アタッチメント研究の新視点と、新しいインタビュー法の開発。これは研究会等を立ち上げ、開発を進めていく予定である。また、病院臨床の会を作り、真に役立つ臨床研究の研究会を立ち上げる予定である。

◆メッセージ

学部生

単に学問的な開発を目指すのみでなく、自らの周りに起こっていることを、単に心理学的な興味のみでなく、社会的・政治的視点をも含めて、総合的に見ていける、しなやかで自由な観点を持っている人を求めます。つまり、視野の広い人ということです。

大学院生

対象化した病理（つまり、他者の病理）を見るのみでなくのみでなく、オノレ自身を振り返る能力と、そうした人格形成をいとわない人を求めます。共有という名の強要、支援という名のソフトな支配ではなく、真に自分自身と対峙することのできる、しなやかで、genuineな感性を持つ学生を求めます。